



手作りのれん



大塚  
あたしんち



文字表示の下駄箱(15個室)



## 全国初! 新集落誕生!! 明るい笑顔!!!

- 補正予算・報告事案等を審議・4月臨時会・6月定例会……………②～③
- 請願・陳情・議員発議・白馬山麓議会……………④
- 委員会活動(コロナ対策・総務)……………⑤ / (総務・経済)……………⑥
- 村政を問う・一般質問……………⑦～⑮
- わたしのひとこと(ウィートリー朋子さん・栗田浩史さん)……………⑯

# 補正予算・条例案・報告事案等を審議

## 4月臨時会

件名	内容	審議結果
小谷村国民健康保険税条例の一部を改正する条例について	国民健康保険税課税額の算出基準のうち資産割額の廃止	可決 (全員賛成)
工事請負契約の締結について（沓掛古民家改修工事）	契約額：1億1,759万円 契約相手方：株式会社今井工務店	可決 (全員賛成)
工事請負契約の締結について（村内山岳観光地域Wi-Fi整備工事）	契約額：7,678万円 契約相手方：株式会社シーテック長野支社	可決 (全員賛成)
小谷村第6次総合計画の基本構想の策定について	基本構想	可決 (全員賛成)

## 6月定例会

### ◇ 専決処分報告

件名	内容	審議結果
令和2年度小谷村一般会計補正予算（第16号）	1億800万円減額 総額 56億5,900万円	承認 (全員賛成)
令和2年度小谷村国民健康保険特別会計補正予算（第5号）	2,500万円減額 総額 3億2,630万円	承認 (全員賛成)
令和2年度小谷村国民健康保険診療施設特別会計補正予算（第5号）	700万円減額 総額 8,980万円	承認 (全員賛成)
令和2年度小谷村後期高齢者医療特別会計補正予算（第2号）	550万円減額 総額 3,880万円	承認 (全員賛成)
小谷村税条例等の一部を改正する条例	地方税法等の一部改正に伴う改正	承認 (全員賛成)
損害賠償の和解並びに額を定めることについて	林道法面からの落石により車体損傷	議会の委任による 専決処分事項

### ◇ 一般報告（報告のみ）

件名	内容
令和2年度小谷村一般会計繰越明許費繰越計算報告	沓掛古民家、複合拠点施設、緊急観光対策事業以下12事業 5億2,759万4千円を次年度へ繰越
令和2年度小谷村簡易水道事業会計予算繰越計算書について	村単水道改良整備事業 1,650万4千円を次年度へ繰越
令和2年度小谷村下水道事業会計予算繰越計算書について	処理場整備事業 1,120万円を次年度へ繰越
出資法人の経営状況報告 (株式会社 道の駅おたり)	売上高 1億8,388万円（前年比68.1%） 当期純利益額△1,087万円

出資法人の経営状況報告 (株式会社 おたり振興公社)	売上高 1億3,303万円 (前年比65.2%) 当期純利益△169万円 サンテインおたり売上合計 3,747万円 (前年比 55.4%) 雨飾荘 5,356万円 (前年比 100.3%) 梅池山荘 2,925万円 (前年比 60.9%) ビジターセンター (自然園) 1,152万円 (前年比 34.3%) 雨飾高原キャンプ場 123万円 (前年比 104.1%)
令和2年度小谷村教育委員会事務事業の点検及び評価報告	おたり学校園運営委員会の運営、公営おたり塾運営、希少チョウの住民共働による保護・啓発活動の継続 など

## ◇ 議案

件名	内容	審議結果
小谷村固定資産評価審査委員会条例の一部を改正する条例について	固定資産税審査申出書への押印削除、口述書への署名押印を削除	可決 (全員賛成)
小谷村国民健康保険税条例の一部を改正する条例について	新型コロナウイルス感染症の影響による国保税の減免特例の期間を令和4年3月31日まで延長	可決 (全員賛成)
小谷村国民健康保険条例の一部を改正する条例の一部を改正する条例について	新型コロナウイルス感染症に係る傷病手当金の適用の期間を令和3年9月30日まで延長	可決 (全員賛成)
小谷村福祉医療費給付条例の一部を改正する条例について	県の制度改正に伴い、福祉医療費の補助金対象範囲を拡大	可決 (全員賛成)
令和3年度小谷村一般会計補正予算(第1号)	3,100万円減額 総額 42億600万円	可決 (全員賛成)
令和3年度小谷村国民健康保険特別会計補正予算(第1号)	350万円減額 総額 3億3,150万円	可決 (全員賛成)
令和3年度小谷村国民健康保険診療施設特別会計補正予算(第1号)	200万円追加 総額 9,810万円	可決 (全員賛成)
令和3年度小谷村簡易水道事業会計補正予算(第1号)	収益的支出 420万円追加 総額 1億7,627万8千円 資本的収入 145万円追加 総額 7,548万4千円 資本的支出 145万円追加 総額 9,302万円	可決 (全員賛成)
教育委員会委員の任命について	深澤和子(梅池南) 昭和40年9月30日生	同意 (全員賛成)
小谷村複合拠点施設の設置及び管理に関する条例の制定について	利用者：村内に住所を有する者又は村長が認める場合 使用料：多目的施設 日中 1,000円以内/日 宿泊15,000円以内/泊 安心宿泊施設 宿泊15,000円以内/泊	可決 (全員賛成)
売買契約の締結について(小谷森林事務所購入)	契約金額：725万1,200円 契約相手方：国 分任契約担当官 中信森林管理署長	可決 (全員賛成)

## ◇ 請願・陳情

付託委員会	件名	提出者	審議結果
総務委員会	「最低賃金の改善と中小企業支援の拡充を求める意見書」の採択を求める陳情書	長野県労働組合連合会 議長 細尾 俊彦	不採択 (賛成多数)
経済委員会	緊急支援について (要望)	北陸信越山岳観光索道協会 会長 峠 重幸 長野県索道事業者協議会 会長 駒谷 嘉宏	一部採択 (全員賛成)
経済委員会	小谷村観光事業者への「持続化給付金」抛出の陳情 (要望)	白馬コルチナ観光協会 会長 荻沢 洋平 白馬乗鞍観光協会 会長 相澤 一義 梅池高原観光協会 会長 栗田 浩史	趣旨採択 (全員賛成)

## ◇ 議員発議

件名	内容	審議結果
GoToトラベル期間延長 (再開) を求める意見書 (案) について	昨シーズン対象とならなかった冬季を含めたGoToトラベルの期間延長 (再開) を求める	可決 (全員賛成)



7日のおかずメニュー  
(豚の角煮、七夕ゼリー・チーズ明太餅)

### 白馬山麓事務組合

#### 白馬高校支援に

#### 地方創生推進交付金活用

6月24日、第1回臨時議会時の管理者 (下川正剛白馬村長) 挨拶。

#### (要旨)

① 4月の白馬村議会議員選挙で新たに5名の議員が当組合議員に就任。

② 高校支援事業はコロナ禍で寮運営や全国募集に大変苦慮。在校生は5月1日現在で163名と再編基準の160名に切迫。全国募集開始から5年経過し、総合戦略を策定して、本年度から4年間、国の地方創生推進交付

金を活用し地域みらい留学にも参画して全国募集を開始した。今までの東京・名古屋・大阪での全国説明会の募集活動も継続しながら、寮・公営塾運営に力を入れ、高校存続に向けて一層取り組む。

③ 環境関連のし尿処理施設クリーンコスモ姫川は、稼働以来27年経過。長期包括業務が今年度で終了のため、今後の住民サービスに影響が出ないよう早急に下水道投入への切り替えを両村で相談しながら進めたい。

◎ 本年度組合一般会計補正予算 (第1号) は616万円追加し、予算総額3億3246万円としました。

内訳はエアコン設置と水道蛇口自動水栓化工事。

#### 寮の夕飯試食

7月5〜9日、組合議員をはじめとする関係者が女子寮で500円にて美味しくいただきました。

(組合議員 吉岡久人)



# 委員会活動報告

## コロナ対策特別委員会

申入書を提出



6月定例会で新型コロナウイルス感染症対策特別委員会は村長に「感染症対策に関する申入れ」をしました。政府は7日、東京都に4度目の新型コロナウイルス緊急事態宣言を12日から発令されました。都市部の状況が地方の観光や暮らしに及ぼす影響が大きいは経験済み、東京五輪後の感染拡大も心配です。小谷村

では夏の観光を目前に、合宿等のキャンセルもあり、不安な声も聞こえております。委員会で討議を重ねた結果、以下の申し入れをしました。

### 【申入書】

全国的な新型コロナウイルス感染症の変異株拡大、村内でのクラスター発生により観光産業への深刻な影響を受けている状況で、観光経済のほか、村財政、医療福祉、教育等への影響が懸念される。感染症に対する村民の閉塞感を緩和し、安全安心を確保、観光産業を支えることが大切と考える。適切な時期を見極め村独自の追加支援策等の展開をしていただくよう、下記の事項を強く求める。

記

1、冬期を迎える支援として  
村内観光事業者に対し  
令和3年10月から3年12

月までの灯油給油代の30%、上限100万円を補助すること。

2、村民の元気づけと経済活性化のため村民対象にプレミアム商品券の発行を。

3、ワクチン接種のスピードアップと他手段の確保、紹介による接種の早期完了を。

(委員長 太田武彦)

## 総務委員会

複合拠点施設視察

令和3年6月17日



平成29年710名からの要望書が前松本村長に提出されたことを受け、「安心居住機能」を整備する計画として宮本地区に複合拠点施設の建設が計画されたが、当初議会が建設を承認した複合拠点施設管理運営に関わる予算の試算とは違い、現在示されている試算は「ふる里応援寄付金から2千万円」、「一般財源から約1千万円」「集落支援員の交付税見込としてパターンに応じて約4百万円から1千万円」を試算計画しています。事業の成否は小谷村の未来にとって大きな課題であり、今後何年続くか分からない年間約3千万円からの財源の補填は、小谷村にとっては大変重荷であり多額の金額となります。

そんな状況下での複合拠点施設が7月21日竣工を迎えますが、今後は複合拠点施設をいかに活用するかが課題であると思います。

複合拠点施設は、目的に

### 【生活支援施設】

住民が自立した日常生活を送るために必要な生活支援の維持・拡充に資する事業を促進し、住民に対する生活支援と高齢者等が安心できる居場所を提供することを目的とする。

### 【多目的交流施設】

住民同士が多世代交流、伝統継承、教育強化などの活動を促進し、住民が地域づくりに参画するために必要な事業を行い、地域全体で支え合う社会づくりの強化を目的とする。

### 【安心宿泊施設】

住民が村内で安心して暮らせるための事業を促進し、住民一人一人の暮らしに対する適切な支援策を講じ、安心して過ごせる環境を提供することを目的とする。

以上が複合拠点施設の目的になりますが、「生活支援施設」「多目的交流施設」

の利用は1階、「安心宿泊施設」は2階になります。

これらの活用について先に記載させていただきましたが、年間約3千万円の財源補填が押さえられるように、行政としてさらに検討していただくことをお願いしました。

村民の皆様には複合拠点施設をご利用いただき、村民誰もが当たり前に活用できる施設となることを願ひ、総務委員会として複合拠点施設に関わる報告といたします。

(委員長 藤原賢司)

**令和2年度 教育委員会事務局 事業の点検及び評価報告書**

5月19日、教育委員会から説明を受けました。事業ごとに「事業概要・目標」「取り組み内容と成果」「課題」を評価シートに担当係でまとめ、各係長から報告を受け、教育委員会で検討し、評価の方法は、客観的に判断するため次の4段階。

A：取組み目標が達成できた。(100%)

B：取組み目標が概ね達成できた。(80%以上)

C：取組み目標が一部達成できなかった。(50%以上～80%未満)

D：取組み目標が達成できなかった。(50%未満)

◎令和2年度の結果は全28事業の内、Aはなく、Bは22事業、Cは2事業(中学校施設維持管理、公民館運営)、Dは4事業(中学校海外交流研修、スキー交流研修、成人式、文化芸術里の秋コンサート)でコロナの影響が目立ちました。



中止の国際人材育成事業・台湾交流

また、外部有識者としての意見を求められ、次のとおりとしました。

①中学校のプール跡地利用及び駐車場の確保について検討願いたい。

②新型コロナウイルスの感染予防・拡大防止の対応策について、今後万全を期して取組みをお願いしたい。

③学校の理解や教育委員会の下支えにより、特色ある学校づくりの事業はいへん評価できるので、今後も推進していただきたい。

④給食の提供にあたり、地域食材の使用率の向上に努められたい。

⑤食物アレルギーの児童生徒への個別対応を継続されたい。

⑥学校における生理用品の使用にあたり、気軽に相談・入手できる方法を検討願いたい。

⑦コロナ禍における成人式の開催にあたり、安全・

安心に開催できる方法を工夫・検討願いたい。

これは、今定例会の最終日に報第15号として報告されました。

(副委員長 吉岡久人)

**経済委員会**

**大北地区農業パワーアップ研修会について**

宮澤県議主導により、大北地区農業パワーアップ研修会が令和3年3月26日に開催されました。

大町市文化会館にて、各



市町村長及び、多数の農業関係者の出席のもと研修会が開催され、大北地区の農業を取り巻く課題について、各市町村長より意見発表がありました。

その後、成功事例の発表があり、参考、課題にすべく、意見交換を行いました。

ありました。

その後、成功事例の発表があり、参考、課題にすべく、意見交換を行いました。

**トンネル貫通**

地元雨申地区及び、村民の悲願であった、雨中1号トンネルの貫通式が、6月12日、県、村、地元役員、工事関係者出席のもと、執り行われました。

(委員長 吉澤学)



# 村政を問う

令和3年6月定例会一般質問

質問通告書 締切6月10日

今定例会は当初3日からの開会でしたが、5月中旬から村内での新型コロナ感染者増を受け、15日に延期し、時間も一人40分、議場はマスコミを除き傍聴者なしとしました。

〈質問項目〉【順番は質問通告書提出順で、質問議員各自でページ作成をしています。】

23日(水) 午前10時～11時55分・午後1時～4時5分

- |         |    |                                 |             |        |
|---------|----|---------------------------------|-------------|--------|
| 1、曾根原恵子 | 議員 | ① 「ゼロカーボン」の実現、一步でも前に進めるための取り組みを | (8 P)       |        |
|         |    | ② 持続可能な「観光地域づくり」へ               |             |        |
| 2、深澤 英喜 | 議員 | ① 令和2年度の補助金について                 | (9 P)       |        |
|         |    | ② 小谷村営のスポーツ施設について               |             |        |
|         |    | ③ 未来の遊園地のイベントについて               |             |        |
| 3、吉澤 学  | 議員 | ① ワクチンの早期実施について                 | ② 防災について    | (10 P) |
|         |    | ③ コロナ禍での補助金、給付金について             |             |        |
| 4、藤原 賢司 | 議員 | ① 人口の維持対策について                   | (11 P)      |        |
|         |    | ② 小中学校の現状と小谷村を愛する心について          |             |        |
|         |    | ③ コロナ禍における観光戦略について              |             |        |
| 5、宮澤 正廣 | 議員 | ① 複合拠点施設の進捗状況は                  | ② 地域防災と村づくり | (12 P) |
| 6、吉岡 久人 | 議員 | ① 各情報の住民周知は                     | (13 P)      |        |
| 7、太田 武彦 | 議員 | ① 各種行政サービスの持続について               | (14 P)      |        |
| 8、猪股 充拡 | 議員 | ① 村内ワクチン接種の状況と・課題・今後について        | (15 P)      |        |
|         |    | ② アフターコロナを見据えての観光施策について         |             |        |

## 「検討する」の回答はどうなったか?

【質問に「検討する」とした回答は、1年間検討後に村長より再回答されます。】(抜粋)

〈コロナ対策関係の質問(令和2年6月)〉

〈再 回 答〉

- |                            |   |
|----------------------------|---|
| ●小谷の自然環境や施設遺産を活用した観光振興は……  | ◆昨年からの観光地域づくり審議会の答申を受け、現在、観光地域づくりプラットフォームとして観光商工係が事務局を担い、3分科会(雪国、里山 SATOYAMA 歴史、観光戦略)で意見や提言をいただいているところ。中長期的な計画を視野に入れながら、将来構想・計画の実現を目指し、今できることから進めていくとともに、プラットフォームでの活動報告を今後随時紹介する。 |
| ●コロナ対策室をつくってほしい……          | ◆現在、ワクチン接種など住民の健康に関することは住民福祉課、村民・事業者からの相談、各種補助金等に関することは観光地域振興課で担当。  |
| ●従来の事業所リフォーム補助金は有効活用できない…… | ◆事業者向けの営業施設等持続化改修補助金上限100万円を実施したが多くの利用があった。今後も適時適切に行う。  |
| ●宿泊事業者への対応策は……             | ◆「HUKIBA VALLEY クリーン認証登録事業者」への再度取組の徹底を依頼。   |
| ●医療・福祉現場の職員待遇と体制強化を……      | ◆職員の特殊勤務手当の処遇改善を昨年度実施。  |

# ゼロカーボンの実現 一歩進める取り組みを



曾根原恵子 議員

**村に適した再生可能エネルギーは**

**問** 地球温暖化の影響が深刻で生活を脅かす身近な問題だ。住民の取り組みも始まっている。再生エネへ向けた基本方針は。

**答** 村長 村の「地域新エネルギービジョン」が策定されている。地熱発電事業化を具体的にするため調査研究したものの。事業化は厳しいが多様な熱資源の利用を進めていく結論を得ている。現在3民間企業による新規地熱発電の熱資源調査が実施されている。

小水力発電についても民間事業者が調査に入っている。

**問** 村の方針はどうか。再生エネの生産から利用、省エネの取り組み等、具体的な説明を。

**答** 村長 長野県の計画を参考にすると「二酸化炭素排出量を2050

年までに実質ゼロに」「エネルギー消費量を7割削減、再生エネ生産量を3倍以上に拡大する」目標。村も今年、環境省の補助事業を活用し、計画策定を検討している。

**問** 「計画を立てて終わる」のでは補助金を生かせない。策定を業者委託する場合はプロポーザルを重視し具体的行動計画に。村民周知と参加も重要だ。「学び」についての計画は。

**答** 村長 公民館「学びの森」講座を実施し

ている。今年度は「気候変動トーク」や「小谷生活エネ研究所」と連携して視察や体験会を計画している。

**問** 可燃ごみの減量分野は最もベーシックな取り組みだ。抜本的な減量化対策が必要。CO<sub>2</sub>削減目標達成には「焼却依存からの転換は避けられない。可燃ごみの削減で財政負担軽減を。生ごみ堆肥化事業を村のビジネスモデルにし、提案したらどうか。

**答** 村長 この3年間は可燃ごみ量数に大きな変動はない。家庭用、事業系ともに生ごみ堆肥化器材等の補助をしている。

## 持続可能な観光地域づくりを

**問** 観光連盟の「ご当地ツアー」について評価と課題は。

**答** 村長 体験型・周遊型17本の商品を実施してきた。昨年よりコロナ禍で計画の8割が実施できなかつた。

マイクロボスでの移動が必要で人数制限20名、収益が上がりにくい状況。天候にも左右され、収益的な課題があるが、村内での食事など経済効果を念頭に計画している。ガイドの確保も課題であり専門性が求められている。

**問** コロナ禍で調整が大変な中で6月より

モート観光を含め四回実施している。職員は継続性を重視し旅行社廻り等営業活動に努力している。歴史文化を提供するには小谷を熟知したコーディネートの人材も必要だ。観光連盟の体制は十分か。

**答** 村長 人事には関与期待する。

**問** ご当地ツアーは食農体験もメインだ。宿泊事業者との連携が欠かさない。宿泊事業者への営業提案も連盟・観光課の仕事だ。

**答** 村長 小谷ならではのツアーの継続を指している。更に埋もれた価値ある商品、迎え入れるフィールドと地権者やガイドなどすべての要因が一致することがよい企画になると考える。その結果として、リピートしてもらえらるなど誘導促進を行う事業展開をしたい。



「Free Ski x 気候変動」トークショーとフィルム上映会 6/26

# スキー場緊急対策補助金



深澤 英喜 議員

**問** リフト6社からの補助金申請の事業内容・事業予算の内容は。審査内容と、支出額は。

**答** 村長 小谷村スキー緊急対策補助金は、補助金上限5000万円とし、スキー場の営業に直接必要となる設備の維持管理費の4/5補助、降雪機等の機械や設備の取得に係る費用の1/2補助を合算した補助金額。索道事業者毎に\*図1のとおりとなる。審査方法はカタログ等の仕様が確認できる書類、整備内容が分かる明細書等の提出。交付確定では、領収書等の支払が確認できる書類・写真等の提出から、財務規定の規定により村長決裁した。

\*図1

	スキー場事業者名	各社申込内容		村長決裁
		6社	事業内容	事業予算
1	白馬アルプスホテル	・降雪機の購入	1億1,500万円	5,000万円
2	奥白馬高原開発	・索道施設等メンテ費用 ・ピステン等の購入	4,600万円	3,429万円
3	白馬館	・索道施設のメンテ費用	5,900万円	4,738万円
4	榎池ゴンドラリフト	・降雪機の導入	1億0,200万円	5,000万円
5	榎池観光開発	・索道施設等のメンテ費用 ・圧雪車等の購入	1億0,100万円	5,000万円
6	白馬観光開発	・施設の修繕 ・チケットセンター整備	6,500万円	4,856万円

**補助金総額は、2億8,030万円**

\*図2

補助決定した事業内容「主たる高補助率の事業」			
①	飲食店の開業 【テイクアウト含む】4件	⑨	キャンプ場の施設
②	スキー学校の感染症対策	⑩	レストランのコロナ感染対策 【間仕切り、個室仕様】
③	キッチンカーの購入	⑪	イベントの開催
④	客室をワーケーションルームへ改修 2件	⑫	簡易PCR検査等を含む誘客事業
⑤	体験型施設の設定	⑬	特産品開発
⑥	特産品等直売施設設置	⑭	感染対策事業 【抗菌対応・サーモカメラ】
⑦	宿泊施設から貸別荘への改修	⑮	シャワールーム設置
⑧	シェアワーキング施設への改修		

**問** コロナウイルス対策補助金  
申し込み件数は。補助決定の件数と審査内容は。

**答** 村長 63件の申し込みあり、5件が事業者の

申し出により中止。審査は別途審査会を設け補助金の対象の有無・補助率等について行った。すべての事業で感染対策を考慮して補助事業を行った。\*図2(質問項目の②、③は紙面上省略)

# ワクチンの早期実現について



吉澤 学 議員

**問** 現在、高齢者に実施をしているが、観光立村小谷にとって、観光客を早く誘致するためにも、接種早期終了が必要と思うが、考えは。

**答** 村長 現在、小谷村では高齢者接種が7月31日に終了する予定で、8月に入り早速64歳以下の接種に移るよう進めている。64歳以下の接種対象者は1450人ほどで、9割の方が接種すると見込むと1300人程が接種することになる。現時点で国が指定する優先順位は、65歳以上の高齢者の次は、基礎疾患を有する方と、高齢者施設等の従事者が優先とされ

ていて、それ以外は地域の

実情に応じて順次接種とされている。順次、優先順位を検討するが、九割の方が接種希望であれば、今の所11月10日頃には全員の接種が完了する想定で進めている。なお、都市部における大規模接種などで64歳以下の接種が進んでいるが、当村においても、65歳以上の接種と併用した早期接種開始が出来ないものか、現在担当課で組み込み策定中である。

## 防災について

**問**

これから雨期に入るが、防災マップ上危険が生じる箇所もある。避難指示、避難場所等の確認、またコロナ禍での避難場所等準備体制は整っているか。

**答**

村長 村では5月下旬に「2021年保

存版災害ハザードマップ」を全戸に配布させていただいた。

小谷村は山間地域ということで、居住地域の大半が何らかの警戒区域に入っている状況だ。このため、集中豪雨による洪水や土砂災害が発生してから避難行動に移ってはいけません、土石流や

地滑り等により避難中の被災が危惧されるので、災害発生前の避難が重要。村では、台風や豪雨等による災害が予想される場合には「災害警戒本部」を設置し、気象庁からの情報や、県等各所に設置する雨量計、河川の水位情報を監視する中で、必要に応じて防災無線や音声告知放送等で情報を伝えしている。災害の危険がなくなるまで滞在するための施設を「指定避難所」としており、規模の大きい8ヶ所がある。なお「おたり開発総合センター」「サ

ンティンおたり」については、要配慮者が避難するた

めの福祉避難所に指定している。コロナ対策の備品としては消毒液やマスク、フェイスシールド等消耗品の他に、間仕切りするパーテーション114区画分を確保して、本年度も追加で整備する予定だ。



ハザードマップ

## コロナ禍での補助金・給付金について

**問**

ワクチン接種が終了すると経済が上向くと思われるが、観光業はまだまだ苦しい。当面の資金補助が必要と思うがどうか。

**答**

村長 観光業は当村の経済循環の32%を担っていて、今回、村内の3観光協会から支援の要望が提出されており、村としては現状を把握したうえで、支援策について練っている。財政状況については国や県の支援を仰ぐべきことなので、様々な動向を含め必要な支援策を見極めて策定する。

**観光地域振興課長** 資金補助の必要性について回答する。国も経済対策のGOTO事業を実施した後、第3波がくるなど、感染対策と経済対策が反比例してしまいう状況だ。まだまだ安全が確保できない状況を踏まえ、当面の間の運転資金等に対する支援や施設等の維持にかかる経費については、考えて行かなければならない。観光事業者の施設規模、営業実態なども踏まえた経営持続に向けた支援策を考えている。内容が決まれば報告する。

# 人口の維持対策を問う



藤原 賢司 議員

**問** 小谷村に関わる住民移動要因をどのように分析しているか。

**答** 村長 出生数より死亡者数が上回るために、ここ3年減少傾向にある。

スキー産業の関係で12月ごろ外国人を中心に増え、春に帰国し減少する観光従事者の転入出、高齢者の施設入所や身寄り者宅への転出、学業等による転出も減少の要因と考えている。

現在、コロナウイルスの影響もあり、移住の問い合わせが増えているので、新設した集落支援係と連携し、全庁でアイデアを出し合い人口減少に歯止めをかけるような施策を考えたい。

**問** 住む条件には、職場と収入が必要不可欠であり、合わせて子育て支援

策が必要だが、どのような政策に力点を置くのか。

**答** 村長 住み続ける条件として、雇用、子育て、福祉は欠かせない要件であり、高齢化が進む当村では、福祉交通の充実が住み続けるうえでの課題と認識している。本年4月からネット環境が改善されたことにより、今後テレワークを活用した労働環境や二拠点生活に対応できると考えている。しかし、原点は今住んでる人達が満足しないところには人は集まらないことを肝に銘じ、そういった視点の政策を展開したい。

**問** 2050年までに20%以上の集落が無居住化すると思われるが、小谷村で無居住化により取り残

される空き家対策の施策は。

**答** 村長 現在小谷村の75歳以上の独居老人

世帯が約170世帯あり、家屋が無居住になっていく可能性が高いと推測される。

村としては、第三者を含めた有効利用の促進を行う対策は大変重要だと思う。

親族等のUターン、第三者への移住促進を積極的に進めることが大切と考えている。

**問** 人口減少の厳しい現実には農業後継者が育たず過疎化と高齢化のみが進行し、耕作放棄地が増え

災害等の要因となるが、これらに対しての施策は。

**答** 村長 村民の皆様には、農地の保全と水路などの適正な管理をお願いし、災害防止に努めたいと思う。

## 小中学校の現状

**問** コロナ禍の・まん延SDGsの取組、デジタル革命など、私達を取り巻く環境に変化が生じて

いるが、児童生徒へのメンタルを含めた影響はどのような状況か。

**答** 教育長 小・中学校ともに、コロナ禍での児童生徒へのメンタルを含めた影響は、現時点では確認されていないが、生活習慣や学習意欲に等に変化がないか丁寧な観察や定期的な個別面談、希望があればスクールカウンセラーを活用する等の配慮をしている。

**問** 小中学校で小谷村を愛する気持ちの大切さをどのように伝えているか。

**答** 教育長 小学校では「地域の方と一緒につくる」、「小谷たんけん」、「小谷の魅力発見」といった学習課題を設定し、地域の方を外部指導者に迎え、村内の各名所の見学学習等を行っている。

中学校では、本年度の重点目標の一つに「地域に学び、地域を誇りに持ち、地域貢献を志す体験活動」「小谷学の充実」を掲げ、「ヒト・モノ・コト」に興味を持ち、小谷村の魅力を再発見する

とともに、小谷を愛し、地域の一員として自覚を高めるよう取り組んでいる。

## コロナ禍での観光戦略

**問** コロナ禍での観光宿泊者数が激減しているが、これらに対応する観光戦略の考えは。

**答** 村長 各事業者で常連客などに積極的な営業をかけていただき、それぞれの立場で誘客活動を行い、新しい顧客の確保を念頭に立った戦略を観光連盟関係者などとも協議し進めていきたい。

**問** 早急に糸魚川市を含め大北地域の活性化への取組が必要であるが、コロナ禍における小谷村周辺地域との観光振興の考えは。

**答** 村長 大北地域や糸魚川市を含めた周辺地域の観光振興は、今、国の機関観光庁が進める「周遊観光促進」であり、一般社団法人ハクババレーツーリズムの設立、運営も、周遊観光の一

つとして事業展開している。

# 複合拠点施設の進捗状況は



宮澤 正廣 議員

要望書の内容は。

**問** 村長 内容は三項目で特別養護老人施設

などがない小谷村では、病  
気やケガ、冬期間など自宅  
で暮らすことが困難な時に  
安心して暮らせる「住まい」  
を必要としている方は何人  
もいる。速やかなプロジェ  
クトの進行を切に願う内容。

また、安全面から運転免  
許の返納された高齢者は生  
活が制約されてしまう。移  
動手段の確保は高齢者の生  
き甲斐にもつながるため、  
支援の充実を求める内容。  
さらには、村内介護福祉施  
設の人材不足や制度により  
対象から外されてしまう方

が多く、誰もが安心して老  
後の生活を過ごせる村独自  
の福祉政策の充実を求める  
内容。

**問** 開業予定日は。

**答** 村長 現在、8月か  
ら稼働することです計  
画している。6月30日には、

施工業者から施設の引き渡  
しが予定され、村民への内  
覧会や施設利用相談会を順  
次実施していく計画をして  
いる。備品類の搬入や各事  
業の営業許可や事業許可等  
の認可も合わせて行いなが  
ら8月2日には全面稼働を  
目指す。

**問** 委託業者は決定した  
のか。

**答** 村長 施設の管理運  
営受託者は「特定非  
営利活動法人、安心生活支  
援ごこみ」となり、令和3

年7月1日付けで委託契約  
の締結を行いたいと考えて  
いる。

ごこみさんとは、小谷村  
で最後まで自分らしく暮ら  
していける環境をつくるこ  
とで、従前より協議をして  
きた。この施設の有効活用  
のほか、村民が元氣な活動  
をするためにも、ごこみさ  
んの力をお借りして運営を  
していく。

**問** 施設の設定条件は。

**答** 村長 小谷村複合拠  
点施設の設定及び管  
理に関する条例については、  
様々な機能を持つ複合的な  
施設であることから、施設  
全体の目的と利用を機能に  
よって応用できるように作成  
している。

また、利用される方を限  
定させないことを基本とし  
ているため、あえて条件を  
付してはいない。但し、運  
用において、臨機応変に必  
要なルールを策定していく

ことで進める。

## 地域防災と村づくり

**問** 地区防災マップの作  
成の現状は。

**答** 村長 防災マップに  
は大きく分けて「災  
害ハザードマップ」と「地  
区防災マップ」の2つの形  
態があり、村が災害危険区  
域や指定避難所の位置等を  
書き込んで住民への情報提  
供しているのが「災害ハザ  
ードマップ」、地区防災組織  
等において、住民の皆さん  
自身が自分の住む地区で、  
災害時に役立つ情報や避難  
経路等危険箇所を書き込ん  
だ地図が「地区防災マップ」  
である。

本年度「2021年度保  
存版災害ハザードマップを  
全戸に配布したところであ  
る。一方の地区防災マップ  
の現状であるが、これまで  
に長野県姫川砂防事務所の  
ご支援をいただき、3地区  
(大網、深原、千国)で完成

しており、現在は1地区(雨  
中)で作成作業中。

**問** 洪水ハザードマップ  
が整備されている  
か。村の留意する箇所は。

**答** 村長 30年に一度の  
計画規模降雨に加  
え、100年に一度規模、  
想定最大規模の降雨におけ  
る浸水深を示している。想  
定最大規模の豪雨となると、  
姫川沿いの全てが危険な状  
況となる。河床との高低差  
が少ない下里瀬地区で浸水  
が想定され、最も留意する  
箇所と言える。100年に  
一度の降雨想定となると護  
岸の低い月岡、池原地区ま  
た、河道の狭まる姫川温泉  
地区等も一部浸水が想定さ  
れる。浸水というより土石  
流の警戒が重要である。



# 各情報の住民周知は



吉岡 久人 議員

**問** ①5月20日に「災害対策基本法等の一部を改正する法律」が施行になったが、住民周知は充分と考えているか。

**答** 村長 最も重要な改訂内容は災害時における円滑かつ迅速な避難の確保として「避難勧告・避難指示」が一本化されたこと。これは、本来避難すべき避難勧告のタイミングで避難せず、逃げ遅れにより被災する者が多数発生しており、避難勧告と避難指示の違いも十分に理解されていないことから、避難勧告と避難指示を一本化し、従来の勧告の段階から避難指示を行うこととし、避難情報のあり方が包括的に見直

された。この改正を受け、広報小谷6月号で、『警戒レベル3 高齢者等避難』『警戒レベル4 避難指示』『警戒レベル5 緊急安全確保』となり、「避難に時間のかかる高齢者や障がいのある人は警戒レベル3 高齢者等避難で危険な場所から避難すること」「避難勧告が廃止され、これからは警戒レベル4 避難指示で危険な場所から全員避難すること」「警戒レベル5はすでに安全な避難ができず命が危険な状況であること。警戒レベル5は必ず発令される情報ではなく、警戒レベル5 緊急安全確保の発令を待っているといけないこと」などを伝えた。

避難情報の発令は、人命第一の観点からたとえ空振りになっても躊躇なく行う。指定緊急避難場所・指定避難所への避難など自らの命を守ることを最優先するようお願いしたい。

5月下旬「2021年保存

版「災害ハザードマップ」を各世帯へ配布した。洪水・土砂災害ハザードマップとして、災害の危険個所などを示しているほか、避難所の場所も表示。

**問** 配布されたハザードマップの2ページ左側は改正前の印刷なので、改正後の警戒レベルを視覚的にも目立つようにカラーの訂正紙を貼れるようにしては。

**答** 総務課長 検討する。（後日カラー訂正紙が全戸配布された。）

マップ上 小谷村から発令される避難情報について確認しましょう。村から発令される避難情報には、以下のものがあります。

警戒レベル	避難情報等	避難行動等
警戒レベル 5 大町特別地域に相当 災害発生情報	緊急安全確保 （村が発表） 注：必ず発令されるものではありません。	風に災害が発生している状況です。命を守るための避難の行動をとってください。避難中の人は、大音量、近頃の安全な場所に緊急に避難しましょう。
警戒レベル 4 土砂災害警戒情報に相当 災害発生情報	避難指示 （村が発表） 危険な場所から 全戸避難	速やかに危険な場所から避難を促し、命を守るための避難の行動をとってください。避難中の人は、大音量、近頃の安全な場所に緊急に避難しましょう。
警戒レベル 3 大町・洪水情報に相当 災害発生情報	高齢者等避難 （村が発表） 危険な場所から 高齢者等避難	避難に時間を要する人（高齢の方、障がいのある方、乳幼児等）とその支援者は避難しましょう。その他の人は、避難の準備を整えましょう。
警戒レベル 2 大雨・洪水注意情報 （発表が発表）	大雨洪水注意情報等 （発表が発表）	避難に備え、ハザードマップ等により自らの避難行動を確認しましょう。
警戒レベル 1 早期注意情報 （発表が発表）	早期注意情報 （発表が発表）	災害への心構えを高めます。

**問** ②5月27日夜と翌日朝の村長メッセージ

「コロナ感染症―村内拡大状況」は充分と考えるか。

**答** 村長 令和2年4月3日に大町保健所管内で初の感染が確認されたことから、6日村民に向けた「村長メッセージ」を发出了した。以降、本年5月27日まで計13回发出了した。メッセージは「音声告知放送」「村ホームページ」でしているが、告知回数や掲載期間は時下の状況に基づいた判断で行っている。

**問** 一人暮らしの方は入浴中等で告知放送が聞こえないと実際聞いた。一人世帯はどのくらいあるのか。

**答** 住民福祉課長 65歳以上の世帯は千国98、中小谷44、中土47、北小谷58。計247世帯。64歳以下の世帯は男177、女55の計232世帯ある。

**要望** 新聞購読者は村で計約650名と言う。高齢者ほど未購読と思われる。告知放送等は時間と場所ので放送を聞く機会が限られるので再考を。

**問** ③健常者以外の住民周知はどうか。

**答** 村長 手段・媒体として、音声では「音声告知放送」「防災無線」「インターネット」では「村ホームページ」映像では「村ホームページ」テレビ、紙では「広報おたり」「広報おたり お知らせ版」「地区回覧文書」「各戸宛文書」が現在ある。

災害発生時の危険性がある時は消防団による「警戒活動」「声かけ」が重要な伝達手段となり、避難においては地元消防団による活動と、常日頃からの顔の見える関係が大切と考える。

**問** 高齢者・障がい者・要配慮者への情報伝達として、福祉関係者・介護支援専門員による訪問活動も、小中学校における連絡網なども情報伝達の重要なネットワークと考える。目や耳の不自由な方への周知は。

**答** 住民福祉課長 今現在具体的な対策はない。

# 各種行政サービスの持続



太田 武彦 議員

## 問

①各種補助金・負担金等として経常的に支出され、一般経費で賄われているものはどのくらいあるか。

②前記①の支出の内ふるさと応援寄付金で賄われているものはどのくらいあるか。

③指定管理により経営している村の施設等の改修が頻繁過ぎないか、改修経費として一般経費、ふるさと応援寄付金で賄われているものはどのくらいあるか。

④今後行われる施策の内、経常経費を一般経費・ふるさと応援寄付金での支出予定は。

⑤今後予測される行政サービス縮小が余儀なくされる事態に対しての対処は。

①、②については他資料により判明し省略)

## 答

村長 ③施設管理への過去3年間支出内訳は、平成30年度は、2億3千万円余、内ふるさと応援寄付金1億8千万円余、一般財源4千万円余で

主な事業は、交流センターちゃんめろの施設改修、雨飾荘露天風呂トイレ建設、柵池自然園木道整備。令和元年度は、1億5千万円余、内ふるさと応援寄付金4千万円余、過疎債5千万円余、一般財源1千万円余で主な事業は、道の駅おたり内装改修、柵池自然園木道整備、池の田テニスコート改修、令和2年度は、6千万円余でふるさと応援

寄付金1千万円余、一般財源1千万円余で、主な事業は交流センターちゃんめろ駐車場舗装工事、柵池自然園木道整備工事。

④複合拠点施設運営事業における経常経費について、

一般財源とふるさと応援基金(寄付金)を活用する。ふるさと応援寄付金については、豊かな暮らしづくりに関する事業、豊かな村づくりに関する事業、すべての住民が安心して暮らせる仕組みづくりに関する事業、子供たちの自然体験活動に関する事業、登山道・遊歩道及びトイレ等の環境整備に関する事業、その他村長が推進する事業の6項目から選択できる。今後も寄付金使途に合致する地域の活性化や課題解決に向けた各種事業に寄付金を活用する。

⑤今後は、人口の減少に伴い、税収や普通交付税の減少が見込まれる。一方で、高齢化による社会関連経費の増加や公共施設・道路

などインフラ施設の老朽化による維持管理経費の増加も考えられる。現状の行政サービスを維持するために、投資的経費を抑えていくとともに、経常的経費についても縮減していく必要がある。村の各施設についても修繕による長寿命化に加え、統合や廃止も視野に入れた検討が必要となる。生活に密着した道路・橋梁などのインフラ施設として村道を例にとると、道路施設等の老朽化による維持管理が今後の課題となっており、橋梁107、トンネル4、シエツド等道路付属物17、路線橋1の管理にあたり、寿命を延ばすことが求められている。従来の維持管理方法である対症療法型から、損傷が大きくなる前に予防的な対策を行う予

防保全型への転換を図る必要性があり、財政面も考慮した中で、より計画的・効率的に維持管理して行くための取り組みが不可欠となる。今後、生活に密着した公共施設・道路などのインフラ施設であっても、利用状況、必要性を鑑みただけで、修繕していくのか、廃止とするのか検討する必要が生じてくる。村では、限られた財源・予算を有効に活用する観点から各種施策に取り組んでゆく。

## 発言

自戒も含め、議員行動として、一つ一つの施策の必要性ばかりでなく、将来的・持続的配慮に欠けた議決行動は将来にわたって禍根を残すこととなる。また、一村民として、必要十分条件の対処を求めるではなく、必要最小限の対処を求めてゆかねばならない。このことを胸に置いた行動をしなくてはならない。



# 村内ワクチン接種の 状況・課題・今後について



猪股 充拓 議員

**問** 今現在、65歳以上の高齢者を対象にワクチン接種が進んでおり、既に2回目の接種もすませた方もいて順調に進んでいると思うが現在の接種状況や課題・今後の接種スケジュール等について伺う。

リーザの設置場所を固定する必要があり。今回のワクチン接種で求められていた「基本型接種会場」として多目的ホールを集団接種会場に登録したがホールの広さとか駐車場について課題がみえてきた。

①接種における問題点・副作用等の報告及び副作用の症状はあったのか。

②7月31日を目途に高齢者への接種を完了させる方向だが、その後64歳以下への接種予定はどうなっているか。

**答** 村長 課題をあげる とすればディープフ

副作用についてはファイザー社のワクチンは接種後に痛みや発熱等の症状がでるといわれている。接種の翌日に発熱等の症状や体が重い等の話を伺っている、接種当日にその場で気分が悪くなった方や蕁麻疹が発症した方も数名いたが、幸いその後の経過観察で無事帰宅している。

②の64歳以下への接種については小谷村の64歳以下への接種対象者が約1450人、9割の方が接種希望と想定すると1300人程と

なり、11月10日頃に2回目の接種が終了する予定だが、現在1日の接種人数を出来るだけ増やすなどとし出来るだけ早期に接種が完了するように調整中である。小谷村の接種券は7月6日納品予定だが、個別に打ち出すことの少数は可能なので大規模接種会場での接種を希望される方はコールセンターへ連絡いただきたい。

## アフターコロナの 観光施策

**問**

小谷村の主産業・観光業がコロナ禍で本

当に打撃を受けている。宿泊業・観光関連事業を廃業に追い込まれた事業者も数多くいる。しかしながらワクチン接種も進み少しずつではあるが回復の兆しにあるように感じる。そこで、昨年度コロナ・小雪対策に各索道社へ補助した5000万円の利用状況はどうか。

**答** 村長 村内索道事業社6社すべてから申

請を受けている。申請内容については降雪機の設置、索道設備のメンテナンス費等であり6社における事業費の総額は約4億8900万円の申請となり今後も索道事業をしっかりと運営し続けてもらおうとで事業支援ができたと考えている。

**問**

5月末で締め切った灯油代等への助成な

ど今後も観光事業者等への経済対策の考えはあるのか。

**答**

村長 コロナの終息  
気配が見通せない中、

当面の運転資金等に対する支援について要望はきている。国や県の給付金などの事業状況も踏まえて経営持続に向けた支援策を考えている。

**問**

観光連盟を中心とした誘客・集客・宣伝

活動の予定は。地域づくり観光審議会の答申でもあり現在でも行っている着地型・体験型観光の今後の展望は。

**答**

村長 令和3年度の  
観光連盟予算総額

は8200万円である。誘客宣伝活動を担っている状況で宿泊補助券やOTAを利用した割引券などの集客事業で1600万円・メディア対応やSNSなど国内外の情報発信に係る活動に1570万円・その他パンフ印刷費等に810万円などとなっている。

具体的な宣伝活動内容はコロナの終息時期や国を主とする経済対策事業の実施状況を伺いながら宣伝部会で協議の上、実施していく計画だ。観光地域づくり審議会の答申を受け観光地域プラットフォームと称し3つの分科会でテーマに沿って意見交換を行っているところだが現在までに答申内容が旅行商品に結びついていない状況である。

具体的な方針が出てないが、地域全体で観光地として意識向上も必要なのでこれからの雰囲気作りを進めることも考えている。

# わたしのひまわり

## 環境にやさしい

### くらしと宿営業

ウイートリー朋子（里見）

白馬乗鞍里見地区に40年続いたお宿「かんでら」さんの後『**椛**』という名で引き継がせていただき4年目を迎えました。

東京のマンション暮らしが長かった私にとって広大な敷地の庭仕事のコツがやっとな！ようやくわかり始めた今日この頃です。

庭の花はできるだけ本来植物が持っている自然の力で育ちやすいよう手助けとその場所にあったものを増やしていくようにしています。

また、小さな畑もやっています。今年是不耕起の自然栽培にチャレンジ。なかなか生育が進みにくいです。がゆっくと育つ野菜たちは病気や虫にも強い気がし

ています。人も植物もゆっくりと生きていけたらいいな、と思っています。

そんな中、5月に以前から気になっていた池田町八寿恵荘さんへチップボイラーの見学に御誘いいただき行ってきました。

灯油で動いているボイラーが当たり前だと思っていたため勉強不足で恥ずかしいな、というのが正直な感想でした。

地域に還元できてこんな環境に優しい方法がある



イギリス人の夫Jurianと蕎麦屋 蛸にて

のなら（経済的に許せるのなら）ぜひ自分たちのビジネスにも将来的に取り入れていけたらと思いました。

## 村道牧ノ入の

### 延伸について

梅池高原観光協会

会長 栗田浩史

先日村の6次総合計画の素案が配られてきました。

「豊かな自然力を合わせ元気に暮らす小谷村」がキャッチフレーズです。それは5次計画でも書いてありましたが人口減少を食い止める事が要の様です。

幸い小谷には冬期観光があります。この冬期間を少しでも延ばす事ができればと思います。近頃はクリスマス時期でも滑走があまりなくなり、年末ギリギリという状況です。

そこで、春スキー期間をもう少し6月頃まででも延ばす事ができればと思います。アルプスホテル近くの

村道牧ノ入線を延伸させて、なんとか天狗原まで持つて行く事ができないでしょうか。春に除雪して春スキーのお客様を天狗原まで送迎してあげれば、梅池・白乗・コルチナはもちろんですが、風吹や蓮華温泉まで春スキーツアーが容易になりお客様も増えれば、関係者の雇用就労も増え、ひいては人口減少の歯止めの一助になるのではと思います。

建設費は？誰が送迎運営？環境省は？いろんな困難はあると思いますが、なんとかクリアして天狗原まで車道が開けば、冬期もグリーン期も観光立村に貢献できると思います。

最後に、先人達が苦勞して梅池自然園まで道路を開けてくれてありますが、自然園まで二方向で行く事ができる様になれば次の時代の村民に大きな観光原資を残してあげられると思います。

## 編集後記

本日にこの1年以上コロナ対応に追われ、本来やるべき行政サービスや当たり前の日常が全て変わってしまった、不自由を受け入れながらの生活が続いている。

しかしながらワクチン接種も進み接種を終えた観光客もチラホラ見え始め少しずつではあるが日常が取り戻せつつある気がします。私自身も先日1回目のワクチン接種をしました。

予想以上に観光関連・宿泊事業者・若夫婦の方々が多く驚きと共にヤル気と希望を感じました。不自由な非日常から癒しを求めて小谷村を選んで来ていただくお客様に対し、受け入れ側も最低限ワクチン接種を済ませて受け入れ態勢を整える。必要なのは現実を受け入れ対応していく姿勢だと感じました。負けねえぞ小谷村！（猪股 充拡 記）